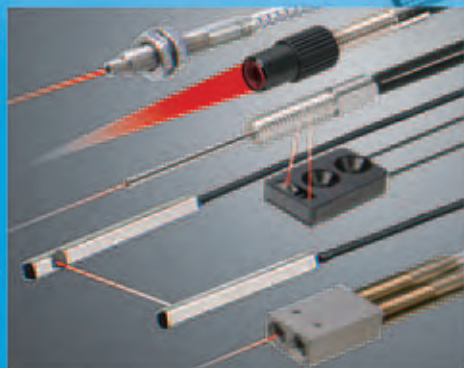


第8期 事業報告書

株主の皆様へ

2009年1月1日～2009年12月31日



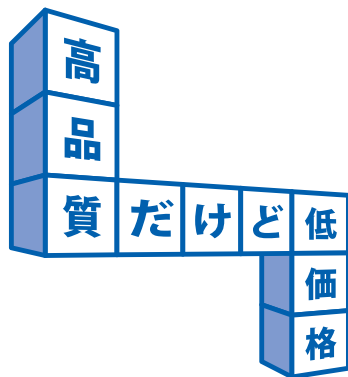
CONTENTS

当社の強み	1
株主の皆様へ	3
製品レポート	6
展示会レポート	7
'09国際画像機器展で新製品を発表	
要約連結財務諸表	8
企業・株式状況	10

OPTEX FA CO., LTD.
オブテックス・エフエー株式会社

他社を圧倒する品質と低価格で、新たな顧客を獲得

「高品質、だけど低価格」を実現



高度なセンシング技術でモノづくりをサポートする当社の強みは「開発」と「マーケティング」に特化していること。さらにファブレス生産体制で設備投資コストを抑え、高品質かつ低価格な製品を提供しています。

当社の主力製品

光電センサ



変位センサ



画像センサ

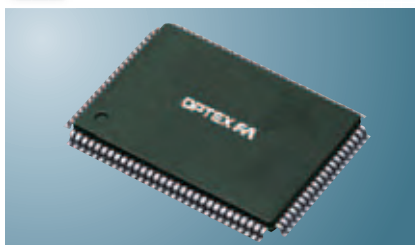


LED照明



高品質 を実現する3つのポイント

1 基幹技術を自社開発



デジタル信号処理の決め手となるCPUを自社開発。画像センサ基幹技術の高度な開発力が、当社の強みです。

2 SICK AG社(独)との技術提携



世界No.1の産業用センサメーカーが長年のパートナー。その厳しい品質基準を満たす高度な技術力で開発にあっています。

低価格 を実現する3つのポイント

1 ファブレス生産でマーケティングに特化



自社業務を商品開発とマーケティングに特化し、生産は試作段階からアウトソーシング。設備投資を抑えコスト競争力を高めています。

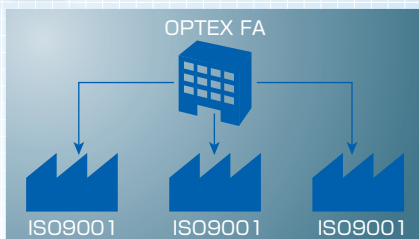
2 徹底したコスト削減努力



例えばSICK AG社へのOEM供給などで大量生産のスケールメリットを追求。開発費もシェアしてトータルコストを極力抑えています。

しています。

3 確かな品質管理体制



国内外を問わず、生産委託する全社がISO9001認証を取得。品質改善や生産性向上を当社が強気にサポートしています。

3 適正利益を追求

Price down

主要な製品を
値下げしました

28%ダウン 28%ダウン 22%ダウン

当社の経営方針は「高品質、だけど低価格」。お客様還元姿勢を貫き、全製品カテゴリで国内最安値製品をラインナップしています。

2009年の取り組み

ファイバセンサ、業界最多・最安値



検出方式・取付・耐環境性など使用状況やアプリケーションに合わせて最適なセンサを選べるよう200機種種のファイバユニットやレンズなどのオプションもラインナップ。業界最安値となる標準価格2,700円からの製品を揃えてお客様のコストダウンに貢献します。

販促ツール、営業体制の強化



「よりわかりやすく、探しやすく」をテーマに総合カタログを一新。新たにSICK AG社の製品を加えるなど掲載数を大幅に増やし1,200ページとしました。また値下げ製品のピックアップに加えて、工程改善集や効率化の参考となるコラムなども豊富に掲載しています。

ネットショップ「FAショップ」を開設



ホームページ完全リニューアルに伴いEC(電子商取引)サイト「FAショップ」を開設。当社製品500品目を販売しています。BtoB(企業間取引)サイトでは画期的なポイント制を導入しました。今後はホームページもフル活用し、新規顧客獲得と売上アップを目指します。

当期は減収減益になりましたが、今こそ「シェア拡大のチャンス」



代表取締役社長
小國 勇

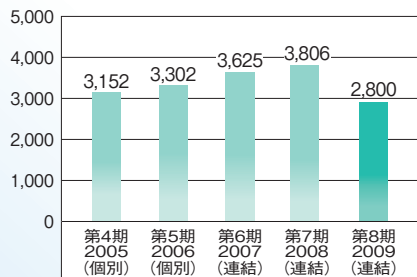
Q 当期(2009年12月期)の業績のポイントを教えてください。

A 「高品質、だけど低価格」を武器に国内で拡販に注力。欧州地域での売上減が大きく響き減収減益となりました。

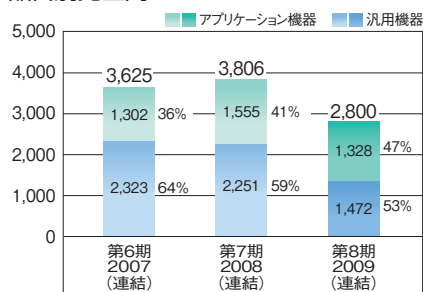
サブプライムローン問題に端を発した世界的な金融不安は、引き続き实体经济に大きな影響を及ぼしました。当社グループの顧客業界でも第3四半期以降には生産の底打ちや在庫調整の一巡がみられるものの、企業収益や雇用環境の悪化など依然として厳しい状況が続いています。制御機器業界においても持ち直しの兆しは出始めているますが、自動車・半導体業界をはじめとして国内外共に設備投資の抑制傾向が続き、需要は低迷しています。

厳しい事業環境の中で当社グループは、「高品質、だけど低価格」をコンセプトに積極的な拡販に努めました。画像センサ、LED照明の拡販や国内外での新規顧客開拓に加えて、同業他社との協業など積極的な営業活動を展開し、徹底的な経費削減にも取り組みました。しかし、主要市場である欧州地域での設備投資抑制や生産調整などによる売上減が業績に大きく影響しました。この結果、当期の連結業

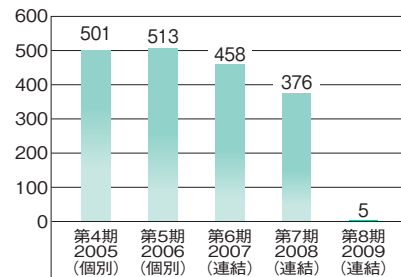
売上高 (単位:百万円)



品目別売上高 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



免責事項 本紙の記載内容のうち、将来の見通しおよび計画に基づく予測には、不確実な要素が含まれており、変動する可能性を有しています。従って、実際の業績は現時点での当社の判断に対して大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

と捉え、営業力強化に取り組みました。

績は、売上高は28億円(前期比26.4%減)、営業利益は5,600千円(同98.5%減)、経常利益は505千円(同99.9%減)、当期純損失は投資有価証券評価損を計上したことにより66,389千円となりました。

の販売が大きく落ち込んでいます。海外のアプリケーション機器については、欧州市場での売上は以前のレベルに復活していませんが、アジア地域では第3四半期以降、変位センサ、ファイバセンサが堅調に推移しています。

Q 地域別・製品別の販売動向はどうなりましたか。

A 国内市場はアプリケーション機器が堅調に推移。欧州市場での落ち込みが全体に影響を及ぼしました。

国内市場について、汎用機器は従来の三品業界(食品・医薬品・化粧品)向けは堅調でしたが、半導体や自動車業界向けは設備投資抑制の影響により売上高減少となりました。アプリケーション機器は、厳しい投資環境の中でも三品業界と液晶関連業界向けに画像センサ、画像処理システム、変位センサが健闘し、売上は堅調に推移しています。

海外市場については、汎用機器の主要市場である欧州地域の経済情勢悪化が大きく影響しました。同地域では上期は在庫調整に加えて実需が落ち込み、在庫調整が一通り終わった下期でも実需は年末にかけてようやく持ち直し始めたような状況であり、SICK AG社(独)向け

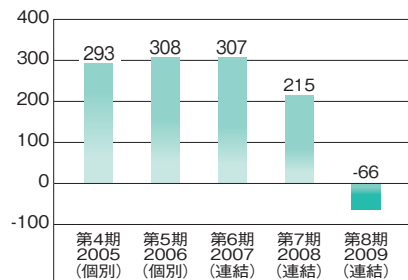
Q 重点的に取り組んだ課題の成果は出ていますか。

A WEBサイトとカタログのリニューアルにより当社の認知度は確実に高まっています。

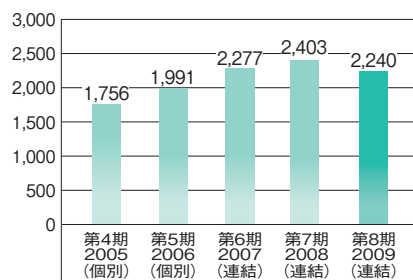
当社の強み「高品質、だけど低価格」を徹底的にアピールし、認知度は確実に高まっています。2009年夏にWEBサイトを全面リニューアルし、検索時に上位表示される対策を施しました。その結果キーワード「画像センサ」「光電センサ」で検索すれば当社がトップ表示され、8月以降はWEBサイト経由で2,000名の新規会員を全業種から獲得しています。

同時に統合カタログも刷新してボリュームを大幅にアップ、競合他社並みの分厚さとし、ラックに入れたときに「高品質、だけど低価格」が目立つアピール効果の高いデザインとしています。

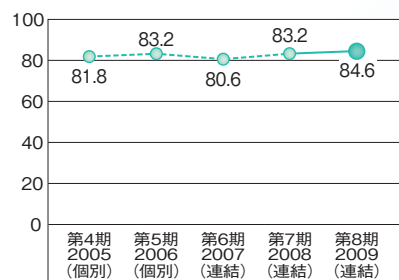
当期純利益 (単位:百万円)



純資産 (単位:百万円)



自己資本比率 (単位:%)



Q 次期の取り組みと見通しはどうなっているでしょうか。

A 顧客のコスト意識が高まる状況をチャンスと捉え、**WEBサイトを中心に、認知度向上に全力で取り組みます。**

経営環境は回復基調に入ったものの、先行きはまだまだ不透明であり、常に下振れリスクを計算に入れたかじ取りが必要と考えています。しかしながら国内市場については、当社にはシェア拡大の余地が十分にあり、景気悪化の影響は当社にとってダメージではなく、購買先がコストをシビアに意識する分チャンスと捉えています。売上の約半分がSICK AG社向けであるため当社は販売効率が高く、低い固定費が武器となります。「高品質、だけど低価格」を全面的に打ち出し、今後もWEBサイトを中心に認知度向上に努めます。あわせて代理店とのバランスを測りながら直販体制の強化も着手します。

製品面では期待をかける、世界最速・最長を実現したファイバセンサを市場投入しました。200機種のパイバユニットも揃えて今後は、トータルなソリューション提案をアピールし、拡販に努めます。またコストパフォーマンスの面で競争力の強いLED照明にも力を入れていきます。

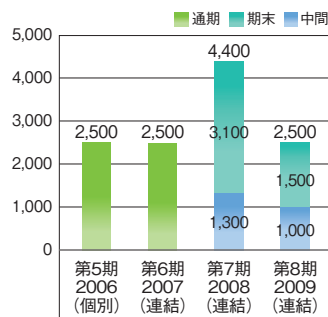


Q 配当について教えてください。

A **安定した配当を維持できるように、今後とも努力を続ける覚悟です。**

配当性向について当社はこれまで50%を目処とし、安定した利益還元を継続的に行うことを基本方針としてきました。当期も財政状況を慎重に検討した上で、株主の皆様へ報いることを重視し、年間配当金は1株あたり2,500円とさせていただきます。今後も配当性向50%を保てるよう努める所存です。

配当金額 (単位:円)



Q 株主の皆様へのメッセージを。

A **2012年の売上50億円達成をめざして再び成長にチャレンジします。**

当社グループは当面の目標を売上高50億円に置いています。2012年にはこの目標を達成できるように今後も全力で努力する覚悟です。2009年期の業績ではご心配をおかけしましたが、今後は株主の皆様のご期待に沿えるよう事業成長に努めます。当社の武器である「高品質、だけど低価格」をアピールすることでシェアを拡大し、売上を伸ばすことはまだまだ可能です。株主の皆様には今後とも、あたたかいご支援を賜りますようお願いいたします。

「高品質、だけど低価格」を実現

業界最多200機種、業界最安値2,700円から ファイバセンサで他社を圧倒



自動化・省力化に欠かせないファイバセンサ

光ファイバケーブルを使ったファイバセンサは、柔軟性があるので従来のセンサでは設置が難しかった狭い場所に組み込める上、信号の減衰が極めて小さいため遠隔での計測も可能です。センサヘッドの小型化により微小物体検出や高速検出なども容易で、生産性向上をサポートする優れた特性を備えています。

販促キャンペーンを実施

ファイバセンサ拡販に向け『ファイバセンサカタログ』を新創刊しました。「欲しいファイバが必ず見つかる」をキャッチフレーズに200機種をラインナップ。カタログとWEBサイトの連動による販促に力を入れています。



WEBでの販促キャンペーン

ファイバセンサ、当社の3つの強み

当社はファイバセンサ開発に力を入れ、品揃えの拡充、製品の高機能化に加え、徹底したコスト削減にも取り組んできました。その結果、業界トップに並ぶ製品ラインナップを実現。一方では応答速度や検出距離で世界一を達成する新製品も開発しています。「高品質、だけど低価格」を武器に、シェア拡大を強力に推進していきます。

業界最安値となる標準価格
2,700円からのラインナップ

業界最多、200機種のファイバユニットに
加えて豊富なオプション

1 業界NO.1の
低価格

2 業界最多の
品揃え

当社の3つの強み

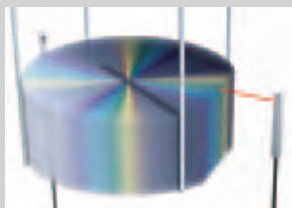
3 即納体制

営業日（月曜～金曜）
午後2時までの
ご注文には当日出荷で即納

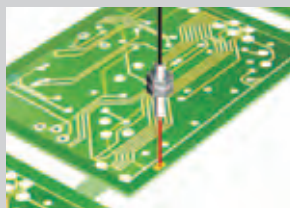
ファイバセンサの使用事例



不織布検出



ウエハ上限検出



基板のパッドマーク検出



錠剤の落下検出

'09国際画像機器展で新製品を発表

生産現場から研究開発部門まで、画像処理製品に関心を持つすべての人が、世界中から一堂に集まる国際画像機器展に今年も出展。国内外に向けて当社の新製品や技術情報を発信し、新たな顧客の開拓に結びつける活動に積極的に取り組んでいます。

当社は2009年12月、パシフィコ横浜で開催された「'09国際画像機器展」に出展しました。この画像処理関連機器の総合展示会には205社が出展し、世界的不況の影響もある中、16,590人の来場者がありました。

当社は、いずれも新世代モデルとなる最新鋭のLED照明コントローラ、バー照明などを出展し、展示会来場者から強い関心を集めました。中でもLED照明コントローラでは、照明の光量監視やフィードバック制御機能などを搭載した「OPPFシリーズ」と超小型「OPPDシリーズ」が、その飛び抜けた高機能と並外れた低価格が注目的となりました。



新製品紹介

超小型LED照明コントローラ「OPPDシリーズ」 < 2010年2月発売 >



“OPPD-15”は、高密度実装技術と最適な放熱設計により、デジタル調光型従来品と比べて体積1/12となる外径寸法 W48×H72×D30mmのコンパクトサイズを実現しました。

調光設定は視認性の良いデジタル表示とし、1,000ステップもの調光設定が可能です。

業界初(2010年1月当社調べ)となる点灯制御入力とPWM(パルス幅変調)の完全同期を実現し、カメラの高速シャッターでも明るさに変動がありません。

さらに設置場所を選ばないパネル取り付けとDIN取り

付けに対応しました。

従来品55%価格ダウンとなり、デジタル調光型としては業界最安値(2010年1月当社調べ)に設定しています。

仕様

入力電圧	DC24V±10%
消費電流	Max.0.9A
調光制御	PWM調光方式 周波数:100kHz 1,000ステップ
出力電圧	DC12V
照明出力	1ch
容量	15W
外形寸法	W48×H72×D30mm

連結貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科目	前期末	当期末
	2008年12月31日現在	2009年12月31日現在
(資産の部)		
流動資産	1,839,512	1,651,453
現金及び預金	676,983	576,712
受取手形及び売掛金	759,466	687,940
製品	203,520	163,148
仕掛品	530	6,340
原材料及び貯蔵品	53,233	47,677
繰延税金資産	18,735	15,730
その他	127,706	154,094
貸倒引当金	△ 663	△ 191
固定資産	1,041,914	989,518
有形固定資産	94,743	77,095
無形固定資産	33,046	48,980
投資その他の資産	914,124	863,442
資産合計	2,881,426	2,640,971

(単位:千円)

科目	前期末	当期末
	2008年12月31日現在	2009年12月31日現在
(負債の部)		
流動負債	368,320	279,766
買掛金	158,431	150,927
1年以内返済予定の長期借入金	12,948	6,378
未払法人税等	75,242	290
賞与引当金	10,289	11,018
その他	111,409	111,152
固定負債	110,021	120,918
負債合計	478,341	400,684
(純資産の部)		
資本金	546,525	546,525
資本剰余金	554,098	554,098
利益剰余金	1,297,118	1,128,573
評価・換算差額等	550	6,121
新株予約権	211	2,698
少数株主持分	4,581	2,269
純資産合計	2,403,085	2,240,287
負債純資産合計	2,881,426	2,640,971

連結損益計算書(要約)

(単位:千円)

科目	前期	当期
	2008年1月1日から 2008年12月31日まで	2009年1月1日から 2009年12月31日まで
売上高	3,806,951	2,800,974
売上原価	2,158,757	1,627,524
売上総利益	1,648,193	1,173,449
販売費及び一般管理費	1,271,316	1,167,849
営業利益	376,877	5,600
営業外収益	39,550	9,705
営業外費用	3,810	14,800
経常利益	412,617	505
特別利益	39,000	—
特別損失	66,178	12,129
税金等調整前当期純利益(△純損失)	385,438	△ 11,624
法人税、住民税及び事業税	190,239	27,125
法人税等調整額	△ 23,181	29,951
少数株主利益(△損失)	2,925	△ 2,311
当期純利益(△純損失)	215,455	△ 66,389

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:千円)

科目	前期	当期
	2008年1月1日から 2008年12月31日まで	2009年1月1日から 2009年12月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	258,576	65,666
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 106,081	△ 50,833
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 107,628	△ 115,103
現金及び現金同等物の 増加額(△減少額)	44,866	△ 100,270
現金及び現金同等物の 期首残高	632,116	676,983
現金及び現金同等物の 期末残高	676,983	576,712

連結株主資本等変動計算書

(単位:千円)

	株主資本				評価・換算差額等		新株 予約権	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計			
2008年12月31日 残高	546,525	554,098	1,297,118	2,397,742	550	550	211	4,581	2,403,085
当期変動額									
剰余金の配当			△ 102,155	△ 102,155					△ 102,155
当期純損失(△)			△ 66,389	△ 66,389					△ 66,389
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					5,570	5,570	2,487	△ 2,311	5,746
連結会計期間中の変動額合計	—	—	△ 168,544	△ 168,544	5,570	5,570	2,487	△ 2,311	△ 162,798
2009年12月31日 残高	546,525	554,098	1,128,573	2,229,197	6,121	6,121	2,698	2,269	2,240,287

会社概要 (2009年12月31日現在)

会社名 オプテックス・エフエー株式会社
 本社所在地 〒600-8815
 京都市下京区中堂寺粟田町93
 京都リサーチパーク4号館8F
 設立 2002年1月7日
 資本金 5億4,652万円
 事業内容 ファクトリー・オートメーション用光電センサ関連機器、
 装置の製造・販売等
 従業員数 80名(連結)64名(単体)
 事業所 東京営業所
 名古屋営業所
 関係会社 オプテックス株式会社(滋賀)
 ジックオプテックス株式会社(京都)
 日本エフ・エーシステム株式会社(神奈川)

役員 (2009年12月31日現在)

代表取締役社長	小國 勇	取締役	小林 徹
取締役	坂口 誠邦	常勤監査役	見座 宏
取締役	岩田 俊彦	監査役	八幡 知行
取締役	西原 弘之	監査役	東 晃
取締役	湯口 翼		

沿革

昭和60年(1985) オプテックス(株)において光電センサの開発に着手
 昭和62年(1987) ドイツのSICK GmbH(現SICK AG社)とのOEM契約により欧州向け出荷開始
 平成元年(1989) SICK GmbH(現SICK AG社)とオプテックス(株)が汎用型センサの開発を目的に合弁(出資比率50:50)で、ジックオプテックス(株)を設立
 平成14年(2002) オプテックス(株)の産業用光電センサ事業部門を分社し、京都市山科区にオプテックス・エフエー(株)設立
 平成17年(2005) 大証「ヘラクレス」(スタンダード)上場
 平成18年(2006) LED照明事業の開始
 名古屋営業所の開設
 平成19年(2007) 日本エフ・エーシステム株式会社を子会社化
 京都市下京区(京都リサーチパーク)に本社移転
 平成21年(2009) 東京営業所の移転

株式の状況 (2009年12月31日現在)

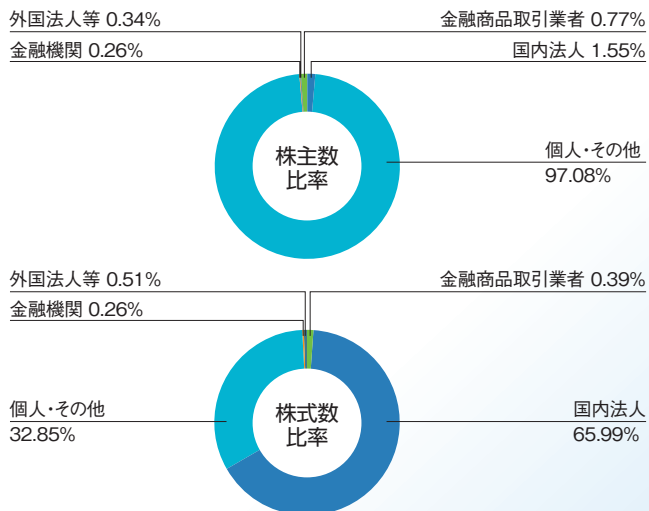
■ 株主数及び株式数

会社が発行する株式の総数 80,000株
 発行済み株式の総数 24,916株
 1単元の株式の数 1株
 株主数 1,163人

■ 大株主一覧

株主名	株数(株)	持株比率(%)
オプテックス株式会社	13,600	54.58
IDEC株式会社	1,000	4.01
小國 勇	812	3.25
ニチコン株式会社	400	1.60
北陽電機株式会社	400	1.60
小林 徹	280	1.12
オフロム株式会社	262	1.05
岩田 俊彦	212	0.85
株式会社 山正マーケティングサービス	200	0.80
西原 弘之	196	0.78

■ 株式分布状況



総合カタログを全面改定。 掲載商品を増やし大幅にボリュームアップ。

当社は2009年夏に、総合カタログを一新しました。総ページ数1,200ページと前カタログからページ数を約4倍に増やし、SICK AG社の製品など掲載商品数も大幅にボリュームアップ。背表紙で当社の強み「高品質・低価格」が一目でわかるようデザインしています。



日興アイ・アール社のホームページ充実度 ランキング評価で優良サイトに選出。

リニューアルした当社ホームページが、全国3,779社を対象とした「2009年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」において、優良サイトに選出されました。「わかりやすさ」「使いやすさ」「情報の多さ」の3つの視点で評価されました。



株主メモ

上場証券取引所	大阪証券取引所ヘラクレス
証券コード	6661
決算期	12月31日
定時株主総会	3月に開催
基準日	12月31日
中間配当基準日	6月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

■ ご注意

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。